

「第5回中信脳卒中地域連携リハビリテーションセミナー」が開催されました

平成 22 年 3 月 20 日（土）当院ヤマサホールにおいて「第5回中信脳卒中地域連携リハビリテーションセミナー」が開催されました。本セミナーは、連携医療機関及び関係部署のご協力のもと、これまで 4 回にわたり、リハビリテーションにおける新しい知識、技術の習得、ネットワーク充実の一環として開催されました。



今年度最後のセミナーは、平成 21 年度「中信脳卒中地域連携パス」を適用し連携医療機関へ転院した患者さんの症例検討会として開催いたしました。一人の患者さんを急性期及び回復期リハ双方の立場から経過報告と、関係職員相互の意見交換が行われました。

今回の本セミナーには連携病院 6 病院の医師・看護師・リハセラピストはじめソーシャルワーカーなど計 102 名が参加し、急性期リハから、回復期リハを継続した 5 人の患者さんのリハ経過について、それぞれの担当者から発表が行われました。症例ごとに質疑応答の時間が設けられ、活発な意見交換が行われました。

通常の医療連携では患者さんに関する転院時経過報告書（サマリー）など書面による情報交換が主体ですが、一人の患者さんを急性期病院、回復期病院それぞれの立場から発表し意見交換を行うことで、各施設のリハ提供システムや考え方に若干の違いがあることが分かり、今後脳卒中リハのアプローチ方法などを地域で標準化していくことが課題であるとの意見が出されました。また、全体を通しての意見交換では、下肢装具の適用について連携医療機関共通の基準を作成することについての提案や、失語症や摂食嚥下障害の患者さんを中心とした症例や看護師の視点からの発表も良いのではないかなどの意見が出されました。



本セミナーで交わされた多くの意見を、今後の中信地区の脳卒中地域連携に活かしながら、来年度以降も地域医療資源の有効活用や、患者家族の満足度の観点から、中信地区における脳卒中地域連携に意欲的に取り組みたいと思います。

この「中信脳卒中地域連携パス」が中信地域における脳卒中医療とその連携の中核となるために、引き続き今後も連携セミナーを進化させていく予定です。

（文責 関谷 俊一、大塚 功）